

排水対策の徹底と慌てない播種を！！

耕起から播種までの一連の作業は、土壌条件のよい日に行い、1日で仕上げましょう。
ほ場が十分に乾いた状態での耕起作業は、碎土率向上により発芽促進や除草剤の効果を高めます。

排水対策

- (1) 水田周囲及びほ場内(5～10m)毎に排水溝を掘る。
(麦跡の場合は、麦用溝を利用する)
- (2) 弾丸暗渠の併用で効果が高くなる。【排水溝の設置例については裏面参照】
地下水位の高いところでは、弾丸暗渠ではなく、表面排水の対策強化が重要！

酸度矯正 基肥施用

施肥時期	肥 料 名		10a当たり施用量	
			普通圃場	麦跡ほ場
土づくり (酸度矯正)	カキ鉄エース		100kg	
基 肥	一発体系	BB大豆一発	30kg～40kg	
	分施体系	BB高度056号	20kg	

- ・ PH6.5を目標とする。

種子消毒

ネキリムシ・フタスジヒメハムシ・紫斑病・ハト害対策

薬 剤 名	対象病害虫	使用方法
クルーザーMAXX	フタスジヒメハムシ、 ネキリムシ、紫斑病	種子1kgに対し、薬剤 8ml 塗布処理する。
キヒゲン R-2フロアブル	紫斑病、ハト	種子1kgに対し、薬剤 20ml処理し、広げて乾かす。

- ・ 播種の2日前～前日に処理する。

耕起・碎土

直径2cm以下の土塊が60%以上になるよう細かくする。
(耕起用トラクターを先行させ、播種機を後追いさせる同日作業が効果的)
ロータリーの回転を上げ、トラクターの走行速度を低速とする。

播 種

里のほほえみ(収穫時期:10月中下旬) ※種子は全て大粒となります

条 件	播種時期	播種量 /10a	播種 深度	条 間	株間	播種粒 数/m	苗立数 /10a	苗立数 /m
普通 ほ場	6月 ^上 旬	7～8kg	3cm	75～ 80cm	13cm	15～17 粒	15,000～ 18,000本	12～14 本
麦跡 ほ場	6月 ^中 旬 以降	8～9kg	3cm	75～ 80cm	11cm	16～18 粒	16,000～ 19,000本	13～15 本

大豆狭畦密植無培土栽培(里のほほえみ)

里のほ ほえみ	6月上旬 ～中旬	11～12kg	3～5 cm	40cm	10cm	13粒	25,000本	10本
------------	-------------	---------	-----------	------	------	-----	---------	-----

下層土が水分過剰の場合は、無理に播種を行わず、
土壌条件が回復(乾燥)するまで耕起・播種日を遅らせる。

裏 面 に 続 く

播種後発芽前(雑草発生前)

除草剤散布

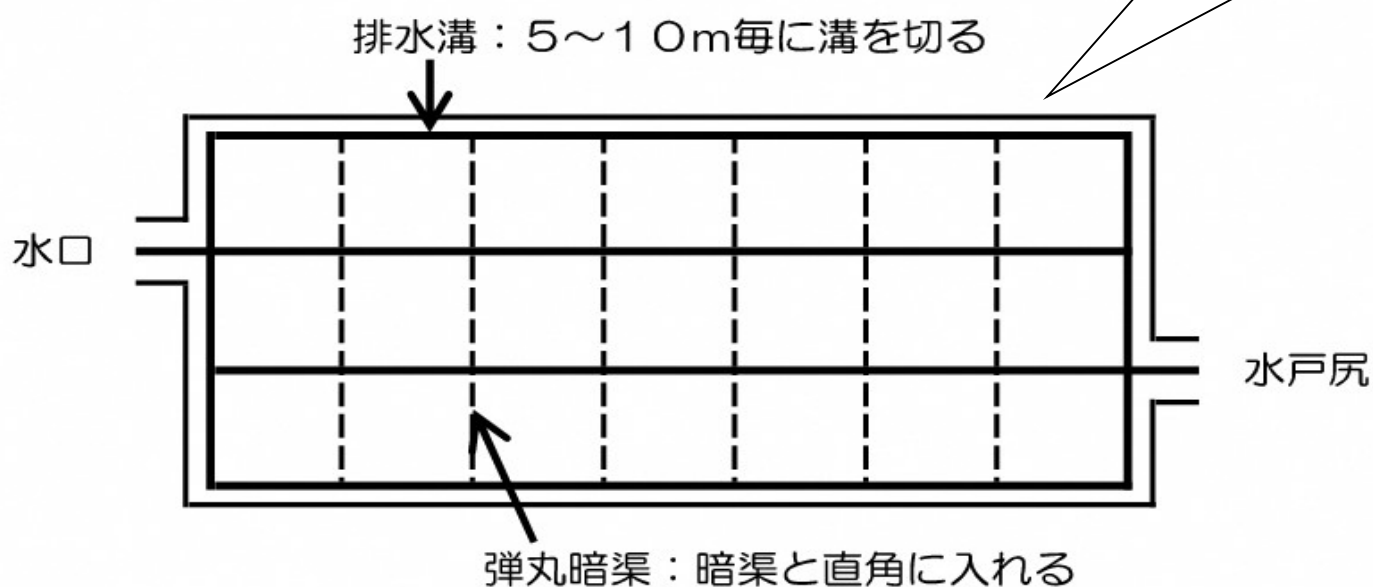
薬 剤 名	10a当たり使用量	備 考
クリアターン微粒剤 F	5kg	畑地1年生雑草(キク科等を除く)
クリアターン乳剤	薬量 500～800ml ／水 100ℓ	
ラクサー粒剤	4～8kg	畑地1年生雑草(エノキガサに対する効果が高いため、狭畦栽培に適する)
プロールプラス乳剤	薬量 400～600 ml ／水 70～150ℓ	畑地1年生雑草(ホオズキ類・タデ類・アサガオ類に効果大)

(1) 粒剤を使用する場合は、土壤に湿り気がある状態で散布する。

(2) 散布後に大雨が予想される場合は、散布を控える。

○ 排水溝の設置例

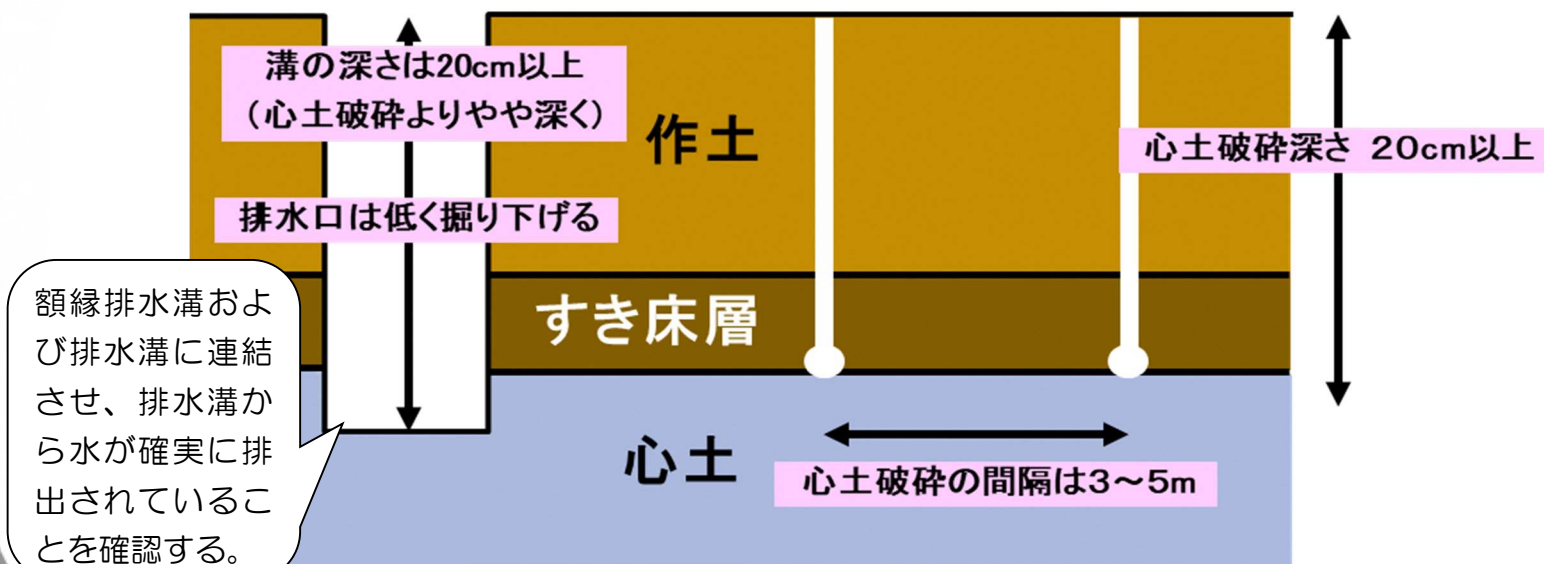
排水溝の設置図



※ 地下水位50cm以下を目標とする

丁寧な排水整備は夏場の効果的なうね間かん水に繋がります。

排水溝の断面図



排水対策は大豆づくりのかなめ！！

詳しいことは営農指導員にお尋ね下さい